

目指す学校像	児童・教職員・家庭・地域が共に育つ楽しい学校
--------	------------------------

重点目標	1 生徒指導・道徳教育の充実、人間関係づくり 2 魅力ある学級経営・学ぶ力をつける授業の創造 3 安全教育の充実・安全管理の徹底、健康教育の推進・健康管理の徹底 4 地域に開かれた教育活動 5 教職員の研修と協働
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	全校児童99名の小規模校で、全学年単学級の学校であるため、卒業まで同じクラスメイトとのかかわり合いになる。お互いのことを分かり合える半面、一度人間関係が崩れると、その後の学校生活に大きな影響を与える。 また、自学級以外のかかわりは、すべて異学年交流となることから、学年の枠を超えたつながりを造ることができている。 ただ、多様な考えに触れる機会が少なく、一度作られた人間関係からの脱却も困難である。	一人ひとりのよさを認め合う、豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのよさを実感できるよう、人間関係プログラムやG・Sの授業を中心に、他者とのコミュニケーション活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と生活のアンケートで「スキルグラフ」「信頼感グラフ」共に右上方に分布。</li> </ul>					
		いじめや長欠のない学校づくり 清掃や掲示物の工夫による学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめほどの学校でも起こりうる」という考えのもと、毎月の生徒指導委員会や簡易アンケート等を用いて、実態を把握する。</li> <li>・SCやSSWを効果的に活用し、教育相談体制を充実させる。</li> <li>・掲示計画のもと校内掲示を充実させる。また、掲示計画の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の保護者アンケートにおいて「教育相談体制に係る項目で、肯定的回答100%。</li> <li>・学校評価の教職員アンケートにおいて「生徒指導の充実」に係る項目で肯定的回答100%。</li> <li>・学校評価の保護者アンケートにおいて「施設・設備等落ち着いた環境づくり」の項目で肯定的回答100%。</li> </ul>					
2	各学級15名程度であるため、担任は一人ひとりと向き合う時間も多く、少人数での指導が可能となるため、きめ細やかな指導ができています。 学力は市の平均よりも低い傾向にあり、その学年における基礎的・基本的な内容の定着が図られる指導、授業づくりが課題となっている。	児童が自己実現を重ね、自分の成長を具体的に把握し、自己肯定感を感じることができている教育活動の推進。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教育活動を行う際に、児童に具体的な目標を設定させ、活動後には振り返りを行うようにする。</li> <li>・一人ひとりの学びの足跡を残すOPPシートを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の児童アンケートにおいて「自分から進んで学習している」の肯定的回答95%以上。</li> </ul>					
		教科担任制を生かしたカリキュラムマネジメントの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年を中心に教科担任制を取り入れ、系統的で質の高い授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の児童アンケートにおいて「学校で勉強したことが分かる」の肯定的回答100%。</li> </ul>					
3	全校児童が少なく、学区が広域であるため、遠いところでは、40分程度かかる地区もある。そのため、登下校での安全の確保が難しい。特に、低学年と高学年で下校時刻が違う日には、一緒に下校する児童が少なくなる傾向がある。 歯科治療率が昨年度大幅に改善が見られたが、継続して生活習慣を含めた保健指導を進める必要がある。 地域の農家の方からの協力があり、農業体験等は充実している。	基本的な生活習慣を身に付ける保健指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業前に月1回保健指導、生活朝会での指導を実施する。</li> <li>・保健日より等で情報提供し、家庭の協力を呼び掛ける。</li> <li>・学校保健委員会を年2回実施し、専門の講師による講演や日頃の保健指導についての協議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「川小よいこのやくそくを守って生活している」の肯定的回答100%。</li> </ul>					
		瑕疵による児童のけが防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所は速やかに修繕するなど、施設管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瑕疵による児童のケガ、事故をゼロにする。</li> </ul>					
4	歴史ある学校であり、地域との関係も密である。学校の取組に協力的で、様々なボランティア活動が充実している。 地域の協力者の高齢化が進んでおり、新たな地域人材の確保が課題となっている。	学校・地域が共に育つコミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会において熟議を確実にし、あいさつ運動等の地域学校協働活動を実施し、学校経営に関する評価を得る。</li> <li>・学校ホームページを活用し、学校経営方針を掲載するなど、学校の情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の年3回の実施。</li> <li>・学校評価アンケートの「あいさつ」に関する項目で、肯定的回答100%。</li> </ul>					
		地場産の食材やヨーロッパ野菜の育成などを取り入れた食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ野菜の育成を中心とした食育の研究を行う。</li> <li>・学校ファームを有効活用し、児童自らが野菜の育成に関わる機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生はサツマイモ栽培</li> <li>・3～6年生はじゃがいもやヨーロッパ野菜の栽培</li> <li>・5年生は米の栽培などを実施する。</li> </ul>					
5	学校課題研修を中心に、各種研修を計画的に推進することができている。 教職員数が少ないため、一人ひとりが担当する校務分掌が多く、各部の部員も少ないため、充実した取組にすることが困難である。同時に働き方改革の観点からも、取組の精選を図ることも課題である。	ICTを活用し、主体的に学習に取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習場面に応じてデジタル教材(デジタル教科書、スタディサプリ等)を効果的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が回答するよい授業のアンケートにおいて、「ICTの活用」の項目で肯定的回答100%。</li> </ul>					
		行事や会議の精選と校務分掌組織の見直しを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のペーパーレス化</li> <li>・目的の達成と実施による負担度を鑑みながら、より教育効果の高まる行事や校務となるよう精査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日をノー会議デーとする。</li> <li>・学校評価「働き方改革(業務改善)」に関するアンケート肯定的回答90%以上</li> </ul>					